

「伝統と文化」

日本の伝統と文化は世界の誇りです

夏とは言え、毎日真夏日が続いておりますが、会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。

本会も、新しい体制で初めての総会が 6 月に無事終了致しました。

本会と致しましては、これまで同様、会の趣旨に沿った身近なテーマを中心に、微力ではありますが、地に足をつけて活動して参りたいと思いますので、今後とも、ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

会長 岩渕

小学生用道徳教科書の、採択本を見てきました

平成 30 年度から、いよいよ小学校で道徳教育が、正規教科として始まります。文科省で検定合格した 8 種類の教科書の中から各市町村教育委員会が 1 種類を選定採択するため、各教科書センターで、教科書の展示会を開催しました。

私も、松戸の県教委出先事務所の展示会場で閲覧してきました。以下に、教科書の問題点（2 点）について、述べたいと思います。

① 「道徳」の教科書に「人権」「権利」「自由」「義務」などを混入していること。

『人権』『権利』などは、『道徳』の希薄な社会で、社会を平穏に『統制』するための方便であって、そこには、『強制』が伴います。

一方、『道徳』は、心の中から自然に滲み出てくる人間同士、更には万物に対して、心をいたす『心根』だと思います。言い換えば、『道徳』教育とは、この『心根』を育むことではないでしょうか。

いずれにしても、『道徳』教育に、『強制的統制』を伴う、『人権』『権利』などを持込むのは、『道徳的』ではなく、論外です。

② 「教科書に登場する女児の言葉使いが乱暴」なこと。

都議選で、自民党の足を思いっきり引っ張った、女性国会議員豊田女史の暴言『・・・こっちだろって言っただろうが、ボケー！！』、『違うだろ！！ このハゲー！！』これが、戦後の行き過ぎた[男女平等]、「性的差別を無くせ」などの教育成果なのです。

これまで、私は、歴史教科書を中心に、沢山の教科書を見て来ましたが、そこに共通することは、どの教科書も、話し言葉が男女とも乱暴であることです。

先日、NHK の夕方の「ニュース番組風番組？」で、女子アナが遠くにいる女性リポーターに男言葉で呼びかけていました。

今や、公共放送を自認する NHK までも、こんなことになっています。

今回採択される『道徳』教科書も同様で、特に、登場する女児の言葉使いが乱暴で、教科書によって強弱はありますが、子供に『道徳』を教える以前の、出版社から教員に至るまで、教育業界に生きる大人達に『道徳』問題があるのではないかと思ってしまいます。

(N. N. 記)



編集・発行： 教育を正す東葛市民の会
会長： 岩渕宣仁
事務局： 永井紀雄
電話： 047-343-1936

日本国憲法「改正」論について思うこと

① 大日本帝国の大東亜戦争敗北を受けて、GHQ（実質は米国）は、我が国を二度と欧米白人諸国に歯向かえない国に作り替える（つまり属國化する）意図があり、皇室の解体もその視野に入っていた。

対して、我が国では国体の護持を大前提としており、従って、新憲法の制定に関しては、とても抵抗できる状況ではなかった。

GHQ は、新憲法の押しつけが、当時の国際法の精神・規定に反することを十分承知の上で、大日本帝国憲法の日本国憲法への衣替えを、日本政府が自主的に行ったかのように装って推進した。

② 30 項目のプレスコード（報道規制）を発動されたことに加え、国体の護持を担保に取られた我が国政府には、再独立を果たし主権回復をする日までは抵抗する術はなく、GHQ の指示を受け入れて、国会審議に委ね、可決を待つという手順を踏むしか道は残されていなかった。

③ 日本国憲法成立の経緯を考えると、主権なき状態で押し付けられ、拒絶できなかつたという状態の論理的帰結は、日本国憲法無効論しかないと考えるが、改変を全く行わずに過ぎた 70 年という時空の重みを無視することには、国民世論の分裂も危惧され容易ではなかろう。

我が民族の叡智を結集して合意形成に努め、建設的な前向き志向に立脚した対応策に辿り着くことが出来れば望ましいが、それは可能か。

④ 現憲法に欠落するものは、国家・国民の防護・防衛という安全保障の理念である。平和主義に立脚した政策運営に努めて、それで祈念する国際環境が得られる保証はない。

我が国の隣国（共産支那、南北朝鮮、ロシア）は、我が国に対する敵対的姿勢を崩さぬばかりか、むしろ強める有様である。こちら側が善隣友好を否定する訳ではないが、隣国側から感じられるのは憎悪・悪意が主である場合、平和友好関係の構築への熱意が伝わらぬ以上、なすべきは国土防衛の決意の下での環境整備である。

強い危機感を感じる現状では、反撃力に裏打ちされた防衛力の確保・整備が急務である。まずは、防御を確り固め、ジャパン・ファーストの政策を優先した上でなければ、善隣友好策の模索は不要である。

⑤ 安保法制の整備は喫緊の課題であり、特に、大量破壊兵器に対する防御体制の構築を急ぐ必要がある。こうした防御力の整備を戦争への道であると短絡的に批判するのではなく、国防に携わる方々の誇りを育み、護り、安全を確保する為に必要不可欠な方策と考えたい。

⑥ 現憲法の規定及びその解釈には、人権擁護、個人の権利尊重という理念があまりにも強く出過ぎているように思える。社会的存在である人間が、唯我独尊に陥っては健全な社会構成に困難が生じよう。

個の権利の行き過ぎた要求や行使にはハードルを用意し、公共の利益重視と言う理念を学校教育や家庭の場で醸成すべく、努力・工夫が望まれる。憲法上に関連規定を設けることは是非については、喧々諤々の議論が必要であろうから、これは次の課題であろうか。

(Y. T. 記)

日韓戦争は始まっている

ドイツ南部のバイエルン州ウイーゼンの公園に、慰安婦像が設置され、3月8日に除幕式が行われました。欧州では初めての設置である。残念ながら、グレンデールでは敗訴しました。

日本人の殆んどは、慰安婦は強制連行された性奴隸ではなく、実態は高待遇、高収入の売春婦だと言うことを知っています。しかし、韓国は、事実などどうでもよく、日本攻撃につかえればとプロパガンダ戦争をしかけています。

韓国は、この美味しい問題を永遠に手放さずに、日本を攻め続けるでしょう。

私たち日本人は、この厄介な隣国との付き合い方を、根本から考え直す時期に来ているのではないでしょうか。

韓国との戦争は、すでに始まっているのだから。

(Y. I. 記)

おばあちゃんの子育て日記

早いもので、孫は10ヶ月になりました。自分の時は、じっくり観察する余裕がありませんでした。じつと、見ていると、子供って飽きっぽいということが分かります。最初は珍しく飛びつきますが、じきに飽きて、振り向かなくなります。人間って必ず飽きるんだな・・・と、妙に納得してしまいました。赤ちゃんも大人も同じだからです。今日、母親がいないときに転んで、大泣きし大変でした。こんな時、おばあちゃんではダメです。母親を必死で探して泣き叫びます。そうか・・・一番苦しい時、母親に助けを求めるのだなと。ここに、母子の強い絆を感じます。母子は一体です。

私が、孫の所へ行く途中に保育園があり、たくさんの園児を目にしています。正直、目を背けたくなります。まだ、うちの孫と変わらない年端もないかない子供たちを目にして、胸が痛みます。どうしてこの大事な時期、母子を引き離す政策を国はやっているのか…男女共同参画です。子供は預けて働く女性こそ輝いていると教えます。生活が豊かになり、大変な子育てを外注して自分は社会に出て輝く女性を生きている。本当にそうでしょうか？

女性にとっての真の幸せは、男性と対等に戦うことではありません。子供が立派に成長して幸せな人生を送ってもらうことです。それを完遂してこそ母親の幸せがあります。

家庭を守ることを第一に、仕事は付け足して良いと思います。家庭にいる主婦を『専業主婦』と言って馬鹿にしますが、『専門主婦』に変えてもらいたいです。修行の専門家は家庭を守るプロです。それくらい誇りを持てる仕事だと思います。なぜなら、家族と言う運命共同体の一族を、大切に守り幸せにしてあげることこそ、最大の喜びだと、誰も疑わないからです。

(K. K. 記)

会員の皆様へ会費納入のお願い

今年度の会費を、まだ、納めて頂けていない方々には、大変恐縮ですが、再度振込用紙をお送りさせて頂きますので、よろしくご協力下さいますようお願い申し上げます。

『教育勅語』は軍国主義への道か？

所謂「森とも学園問題」で、教育勅語の教育は「軍国主義への道」とか「戦前回帰」などと、メディアは煽り立てていますが本当でしょうか。

教育勅語が我が国の国粹主義、民族優越主義高揚のためのものなどの誤解を招かないように配慮して、欧米で広報活動をしました。

世界の日々が絶賛した「教育勅語」

『教育勅語』を世界に紹介したのは、勅語が発布されてから15年後の明治38年、日露戦争下のことでした。

当時の日本は、東郷平八郎率いる連合艦隊が世界最強と言われていたロシア・バルチック艦隊を破り、中国大陸でもロシア軍に勝利を重ねていました。「極東の小さな島国である日本が、大国ロシアを相手に戦況を有利に進めている・・・」

このニュースは世界を駆け巡り、世界の人々を驚嘆させました。

中でも、英國は、日本発展の原動力を、教育勅語を元にした道德教育の力と捉え、講演者の派遣を日本政府に要請してきました。この時、文部省が白羽の矢を立てたのが、英國への留学経験もあった元帝國大学総長で理学博士の菊池大麓でした。

菊池は明治40年2月から約半年間に亘り英國各地を巡回して、精力的に日本の道德教育の紹介活動を展開しました。

そこで菊池は、教育勅語の根本にある道德は「忠孝」にあり、「忠孝」は他のあらゆる道德の源泉であることを力説しました。

日本国民は天皇・国家のみならず両親・祖先を敬うことにより人格を陶冶し、国家永続の力を求めようとしているとして、祖先の崇拜は「古代から現在に至るまで、常に我が国の性格を陶冶する最も有力な要素であった」と述べ、それは西洋文明が日本を席巻しても変わることは無かった、と説いたのです。

これに対して全英教員組合の機関紙は、「教育勅語と合致した教育精神を有する国民は、如何なる困難に直面しても進化上の出来事と済まされ、決して進歩の大道を逸脱することは無い・・・この愛国心が強く、勇敢無比な国民は、教育上の進化を続け、結果としてその偉大な勅語に雄弁に示された精神をもって、国民的伸展の歴程を重ねて行くであろう」と論評しました。

又、教育専門月刊誌「エデュケーション・タイムズ」は、勅語の前段を引用して、「ここに威儀があって思慮深く、人心に感動を与えるような訴えかけの好例を発見することが出来るであろう。」と教育勅語を絶賛してやまなかつたという記録が残っています。

開講演説会の告知広告がザ・タイムズにも掲載され、『教育勅語』に対する関心が如何に高かったかを物語っています。

『教育勅語』に述べられている精神が如何に普遍的な価値観を有したものであることの証とも言えます。

(T. K. 記)



教育勅語御下賜之図（安宅安五郎画）

ご関心をお持ちの方には、小冊子を差し上げます。事務局までお知らせください。